

今回の特別講演・シンポジウム開催にあたって

澤田拓士（動物用抗菌剤研究会 理事長）

この度、2000年度より2期6年の任期を満了された小久江前理事長の後任を仰せつかりました。何卒よろしくお願ひ致します。また、会員の皆様には本会の運営に一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、今回のシンポジウムにおける演題は本年1月末に開かれたシンポジウム委員会で、これまでと同様に小久江座長の下で行われた熱心な討論の末決定されたものである。最近の国会シンポジウムでの演題も考慮しつつ提案されたのはやはり薬剤耐性菌関連が最も多く、内容的には多岐にわたるものの、いずれも重要でインパクトが強いと思われた。そこで、特別講演として2題を、シンポジウムとしてI、II、IIIを設定することによってできるだけ幅広い要望に応えようとした。

特別講演1は、国内外での関心が非常に高い「畜産食品由来薬剤耐性菌が人の健康に及ぼす影響を評価する」ことについて食品安全委員会の専門委員で北里大学医学部の井上先生にお願ひした。特

別講演2は、第25回（平成10年）以来ほぼ毎回のように取り上げてきたもう一つの関心事である「耐性菌を巡る最新の国際情勢」について、日本動物用医薬品協会の大島先生にお願ひした。

シンポジウムIでは近年研究の進展がめざましい薬剤耐性機構に関して東京薬科大学薬学部の野口先生に最近の知見の紹介をお願ひした。また、シンポジウムIIは、前回の特別講演「ポジティブリスト制度」に関連し、その導入によって生じる「動物用医薬品使用禁止期間」の問題について小久江前理事長にお願ひした。シンポジウムIIIでは本シンポジウムのポジティブなテーマとして、今回も新規に開発された伴侶動物用抗菌剤2剤についてそれぞれ（株）ビルバックジャパンの伊東先生と千寿製薬（株）の守先先生に紹介して頂いた。

いずれのご講演も難しい課題を解りやすく説明して頂いたことと関心の高さから、講演後の討論も大変活発であった。演者の先生方のご協力を深謝する次第である。